

令和7年度



緑風

狭山台小学校だより第9号

令和8年1月8日

児童数 380人

◎ かしこく やさしく たくましく

希望と期待に満ちた 素敵な新年に

明けましておめでとうございます。希望に輝く、素敵な新年をお迎えのことと存じます。旧年中、保護者・地域の皆様には、狭山台小学校の教育活動に対して温かいご理解とご支援をいただき有難うございました。新しい年が、皆様方にとって明るく喜びに満ちた、素晴らしい1年となりますように、心からお祈りいたします。

今年度をまとめる3学期が始まりました。本日、始業式に臨む子供たちの表情は、新しい年や、新しい学期に出発する希望と、期待に満ちていました。学校の最終学期の始まりに相応しい1日目となりました。

さて、それぞれのご家庭のお正月はいかがだったでしょうか。日本の「正月」の起源は、元々は、祖先に感謝し先祖の霊を祀るものとされました。後に五穀豊穡の神様を迎えて、その年の豊作を祈るようになったと伝えられています。詳しく分かっていないこともあります。日本の行事として古くから伝わるもので6世紀の半ばには存在していたようです。

現在のように、門松やしめ飾り、鏡餅などの“正月飾り”が広まったのは、江戸時代中期からで“おせち料理”が食べられるようになったのもこの頃からです。また、“初詣”として、神社に参拝するようになったのは明治時代以降からで、都市部から始まった新しい慣習でした。

このように現代の“正月スタイル”は、江戸時代に始まり明治時代にかけて確立したのと言えます。しかし「無事に新年を迎えられる」ことへの感謝と、「新しい年をよい1年にしたい」と願う人々の気持ちは、今も昔も変わりません。

狭山台小の子供たちは、この9ヶ月間、学校生活に前向きに取り組み、豊かな体験を重ね一人一人が逞しく成長した姿を見せてくれました。今日から始まる3学期は、学校の1年で最も短い学期ではありますが、現在の学年のまとめをする、とても大切な時間です。

子供たちには、ここまでの頑張りで身につけたよい力を土台にして、新しい目標を定めて努力を再スタートしてほしいと思います。そして、進級や進学に向けて最後までコツコツとやり抜いて、さらに大きく成長した姿で“希望の春”を迎えてくれることを願っています。

本年も学校と家庭、地域の皆様と力を合わせ、台小っ子のよりよい成長のために努力していきたいと思っております。皆様の変わらぬご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

